

タイトル：2024年度 教育セミナー（第20回）

日時：2024年9月19日（木）～22日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階 大会議室（303）

森 奈桜子（筑波大学大学院 人文社会ビジネス科学学術院）

この度はイスラーム☆教育セミナーに参加する機会をいただき、ありがとうございます。普段、ディシプリンは同じものの調査地が異なる人々と過ごしていることもあり、それとは対照的に、様々なディシプリンから同じ地域をまなざして考える時間はとても貴重で、学び多い4日間でした。

とりわけ文字資料に基づく研究の姿勢について学んだことは、今後研究を進めるうえで最も大切なことのうちの一つであると感じました。

今回のセミナーでは、受講生の皆さんからのご発表も、先生方のご講義も、文字資料に基づく詳細な分析から立ち上げていく研究がほとんどでした。一つ一つのご報告は、異なる地域・時代・対象・資料を扱っていましたが、すべてのご報告を通じて、文字資料を徹底的かつ精緻に読んでいく姿勢や、資料の性質・含意の捉え方、資料から言えること・言えないことを整理する方法、様々な同時代資料を用いてピースを集め、世界を立ち上げていく過程に何度も触れることができました。また、文字資料を徹底的に読むうえで、言葉を慎重に、厳密に用いることが不可欠であるということについても、改めて自覚的になりました。

翻って、自分がすでに読んでいた資料について、もっと別の角度から読み取れることがあるのではないか、とも考えるようになりました。私自身の研究関心は、現在のモロッコで展開されている公教育とそれにかかわる人々にあります。文化人類学的研究を志していることもあり、既に手元にある政策文書などは、「現行の政策を知るため」という安易な読み方にとどまっていた。普段触れているディシプリンとは異なる方法で世界をまなざし、考えている方々の視点を一時的にでも共有させていただけたことで、そのことに気づくことができました。自分自身の研究を深めていくうえで、重要な気づきになったと思います。

初めて機会をいただいたポスター発表は、内容も方法も大変に拙いものとなりました。それでも自分の考え始めていることを共有させていただけたことで、この地域で何十年も研究を続けてこられた先生方のご助言下さったり、受講生の方々からいくつも質問をいただいたり、発表をきっかけに同じ地域で研究されている方から研究会に誘っていただいたりと、大変有難い経験を得ることができました。

また、セミナー最終日に後藤先生や黒沼先生が設けてくださったミニ講義から、ポスター発表のイロハを学ばせていただいたので、機会があればリベンジしたいと思っています。

最終日の夜会まで含め、とても充実した4日間でした。改めて、この機会をご準備いただいた先生方とセミナーを共にさせていただいた受講生の方々に感謝します。本当にありがとうございました。